



1937年 敷香町オタス [撮影 服部 健]

樺太1905-45

- 日本領時代の少数民族 -

第12回特別展

1997年7月19日[土]-9月28日[日]

◆開館時間 午前9時30分-午後5時30分 (9月17日以降は午後4時30分) ◆特別展観覧料 一般250 [200] 円 高校生・大学生80 [50] 円 小学生・中学生50 [30] 円 [] 内は10名以上の団体料金 ◆休館日 毎週月曜日 (ただし9月15日は開館)、9月16日 ◆主催 北海道立北方民族博物館 ◆協力 旭川市博物館、網走市立美術館、木村捷司記念室、斜里町立知床博物館、市立函館図書館、市立函館博物館、資料館ジャッカ・ドフニ、函館市北方民族資料館、北海道大学農学部博物館、河野 廣氏、金 喜多一氏



樺太 1905-45

-日本領時代の少数民族-

第12回特別展

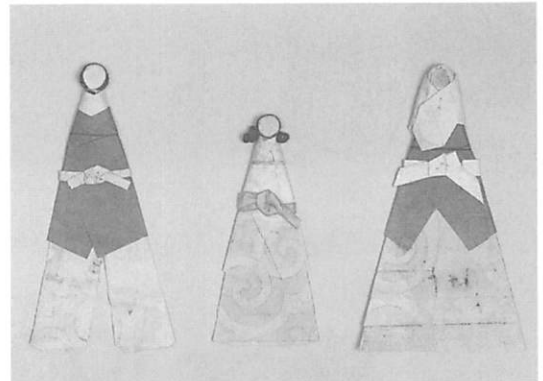
サハリン島には古くからニブフ、ウイльта、アイヌが狩猟や漁撈、トナカイの飼育を行い、それぞれ固有の伝統文化を維持してきました。19世紀後半から今世紀にかけて、地理的に近い関係にある日本とロシアは、サハリン島を自国の領土として獲得することをおある時は条約で、ある時は武力で行いました。

日露戦争後のポーツマス条約により日本が領有したサハリン島の北緯50度以南・樺太（からふと）には、ニブフ、ウイльта、アイヌの他にウリチ、エベンキ、サハといった少数民族も暮らしていました。これら少数民族に対して当時の日本政府がとった政策は、ある一定地域に定住させ生活の近代化をすすめ、日本へ同化させることでした。

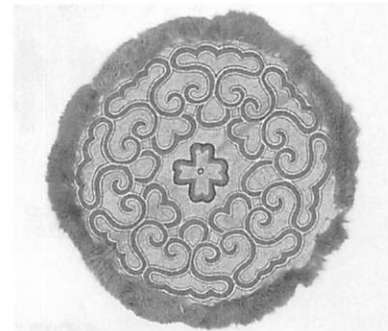
本特別展では、樺太に暮らしてきた少数民族の伝統文化を、領有していた当時、日本人によって収集された資料をもとに紹介するとともに、定住化・同化政策後の少数民族の状況を実物資料や写真などによって明らかにします。



オタスのニブフ集落（撮影 服部 健）



ウイльтаの紙人形



サハの革製工芸品

期間中の行事(詳しくは博物館へお問い合わせください)

■講習会『ウイльтаのお人形づくり』

日時：7月27日(日)午後2時より

講師：北川アイ子（資料館ジャッカ・ドフニ）

会場：当館講堂

■講演会『わたしのなかのサハリン』

日時：8月2日(土)午後2時より

講師：神沢利子（児童文学者）

会場：当館講堂

■講座『サハリン少数民族の過去と現在』

日時：9月20日(土)午後1時～6時、21日(日)午前9時～12時15分

講師：ウラジーミル サンギ(作家)・伊藤 悟(北網圏北見文化センター)・河野本道(文化人類学者)・田中 了(ウイльта協会)・豊川重雄(札幌アイヌ文化協会)

会場：道立オホーツク公園センターハウス



◇常設展観覧料：一般250 [200] 円、大学生80 [50] 円 [] 内は10名以上の団体料金。小中学生・高校生は無料です。免除規定がありますのでお問い合わせください。〒093北海道網走市字潮見313-1電話0152-45-3888 ◇行事内容に変更が生じることがありますのでご了承ください。◇FAX情報サービス：ボーリング機能のあるFAXで博物館の行事をお知らせしています。FAX0152-45-3889 ◇当館への交通機関：JR網走駅前よりバス（天都山線）で北方民族博物館下車。